

令和元年度 第2回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会 会議録

会議名	令和元年度 第2回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会		
日時	令和元年8月26日(月)午後1時30分～午後3時30分		
場所	橋本市教育文化会館3階第3研修室		
出席者	委員 (敬称略)	堀内 秀雄 平家 利也 遠藤 和美 上田 ひと美 戸島 浩子	乾 幸八 田村 亜美 森田 知世子 大山 善久 東 美樹
			前田 陽一郎 山本 光子 浅野 匡洋 岸田 昌章 藪 祐梨子 【出席委員：15名】
欠席者	委員 (敬称略)	松端 克文 小林 俊治	藤田 佐紀 森川 嘉久 【欠席委員：4名】
事務局		政策企画課長 中岡 勝則 地域振興係長 大渡 明毅	政策企画課長補佐 前川 朋久 地域振興係副主査 神田 知里
次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副委員長について ・はぐくむ委員会の進め方について(おさらい) ・8月5日開催 はぐくむ委員会勉強会について ・勉強会後に提出された検証ポイントの検討シートについて(まとめ) <p>3. 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はぐくむ委員会で検証するポイントの検討(グループワーク) ・グループワークの報告 ・次回の日程について <p>4. 閉会</p>		
資料	<p>資料1 はぐくむ委員会の進め方について(おさらい)</p> <p>資料2 令和元年～2年はぐくむ委員会のスケジュール案</p> <p>資料3 8月5日開催 勉強会の概要(報告)</p> <p>資料4 検証項目検討シートのまとめ</p> <p>資料5 検証項目 参考資料</p> <p>資料6 グループワーク用ワークシート</p>		

1.開会

事務局及び委員長より開会のあいさつ、資料確認。

委員 19 名中 15 名出席により、委員会が成立していることを報告。傍聴者 3 名。

《委員長あいさつ》

- ・ 前回のはぐくむ委員会後の勉強会を経て、委員の皆さんに提出してもらった検討シートについて、副委員長・事務局を交えて三役会議を行なった。その三役会議の中で、検討シートについては意見が多かった項目 3 つにまとめて今回の委員会への資料とすることとした。
- ・ まずは、はぐくむ条例について市民の皆さんによく知ってもらうことが大切。実は、一般的には市の広報誌でも 2 割の市民が読めばベストセラーと言われるくらいなので、情報共有するといってもなかなか難しい。
- ・ 作った条例を飾り物にしないこと。
- ・ はぐくむ条例によって、市と市民の距離が近くなったと感じられることが目標。
- ・ 市にも様々な担当部署があり、一気に変化がわかるようになるということは難しいが、少しずつでも前に進むように。
- ・ また、現状よりは悪くならない、後退せず、前にしか行かない、前進しかしないことを目標にする。
- ・ はぐくむ委員会での検証とは、何から手を打てば協働が進むかという視点。
- ・ はぐくむ委員会も、見守りながらも、自分たちも汗をかいて動く委員会に。
- ・ 第 2 回目のはぐくむ委員会では、今年 1 年の方向性を決めるためにも大いに議論していただきたい。

2. 報告

(1)副委員長について

事務局より、第 1 回はぐくむ委員会で保留となっていた副委員長 2 名体制について、松端委員に確認を取ったところ、副委員長を引き受けてくれることとなったためその旨を報告。これにより、委員長は堀内委員、副委員長は乾委員と松端委員となった。

なお、松端委員と乾委員は、はぐくむ条例第 10 条に関する「地域運営組織検討懇話会」において座長と副座長を務めている。

(2)はぐくむ委員会の進め方について（おさらい）

(資料1 はぐくむ委員会の進め方について (おさらい))

(資料2 令和元年～2年はぐくむ委員会のスケジュール案)

資料1、資料2に沿って、事務局よりはぐくむ委員会の進め方について説明。

8月5日に開催した勉強会において、委員から質問があったため、第1回でも説明した資料を用いておさらいを行なった。

【はぐくむ委員会の進め方】

はぐくむ委員会は、はぐくむ条例の条文に記載されている項目について検証し、はぐくむ条例の基本原則や基本理念に則ってまちづくりが進んでいるか、これからもっと協働のまちづくりを推進するためには、どのポイントに力をいれたらよいか、などについて検証・提案する。

1. はぐくむ条例の再確認
2. 検証するポイントの設定
3. 関連する主な取組みについて確認
4. 評価と提言

なお、はぐくむ委員会からの提言（提案）については、

1. 市ホームページへ公開
2. 関係各課室と共有
3. 今後の市政運営への反映に努める
4. 必要に応じてはぐくむ条例を見直す

【はぐくむ委員会スケジュール案】

令和元年度に委嘱したはぐくむ委員会について、任期は2年。

令和元年7月に第1回、8月に第2回を実施。案として、第3回を2月頃としてはどうかと考えており、間の11月頃に研修を予定している。この研修は職員研修であるが、関係団体としてはぐくむ委員会も受講できるように調整中。

令和2年度は次年度になるためはっきりとは言えないが、令和元年度と同様の会議回数として考えている。

《委員意見・質疑》

- ・少人数の班編成を取り、検証する範囲を担当で割り振って進めてはどうか。
委員会を各班の発表の場とし、委員会までに各班で作業を進めた方が深く検証できるのでは。
⇒今後の進め方も含めて、3. 議事でグループで話し合しましょう。(委員長)
- ・第1回はぐくむ委員会の会議録はどうなっているか。

⇒署名委員にご指摘いただいた箇所があり、一部修正した。近日中に市ホームページに掲載予定。(事務局)

《委員長意見》

- ・任期2年目は各部局のデータ出し及び委員で検証を行う必要があるので、きっちりはぐくむ委員会として提言するためには、任期2年目の会議回数はせめてあと1～2回増やしてほしい。

(3)8月5日 はぐくむ委員会勉強会の概要について(報告)

(資料3 8月5日開催 勉強会の概要(報告))

資料3に沿って、事務局より有志で開催した勉強会の概要について報告。

参加できなかった委員については、資料3と同様のものを勉強会終了後に共有済。

【当日の流れ】

- ・配布資料の説明
- ・3～4人のグループとなり、興味のあることや気になっていることについて意見交換
- ・グループでどんな話をしたか、全体で共有

【意見交換の内容】

- ①地域の問題点やニーズをもっと細かいところから吸い上げする必要がある。
- ②はぐくむ条例の背景や成り立ちについて意見交換した。
- ③少なくとも行政内の他部署の管理職ははぐくむ条例の理念を知り、はぐくむ条例について共有できる場が必要。
- ④市の全職員がはぐくむ条例について答えられるように、意識を統一してほしい。

(4)勉強会後に提出された検証ポイントの検討シートについて(まとめ)

(資料4 検証項目検討シートのまとめ)

(資料5 検証項目 参考資料)

8月5日に開催した勉強会を受けて、はぐくむ条例のどこを検証するポイントとするか、委員各自で委員会までに検討した。その際記入したシートを事務局でまとめた資料4について、報告した。

また、提出されたシートを見ると、情報共有、市民参画、協働のまちづくりに関する項目が多かったため、この3項目をピックアップし、いくつか意見を紹介した。

資料5に関しては、意見として多かった情報共有、市民参画、協働のまちづくりに特に関係するはぐくむ条例の条文、その意図、関係する取り組みについて抜粋したもの。

《1. 情報共有》

①検証項目のよいところ・強み・頑張っているところ

- ・はぐくむ条例の冊子を全戸に配布した。
- ・はぐくむ条例について、団体での説明会やワークショップなどを行なった。
- ・はぐくむサポーターの登録を呼びかけ、情報を提供している。

②検証項目の改善してほしいところ

- ・紙面や回覧のような情報提供も必要。
- ・情報提供の際は同じような情報が多い。

⑤検証項目の理想の姿

- ・市民参画できている地域の事例を知る機会があればいい。
- ・ボランティアする人にもたくさんの情報の提供がある。

⑥それぞれができること

(行政)・少人数の団体などにも条例を説明する。

- ・多言語を母国とする人への配慮。
- ・職員の「はぐくむ条例」「協働のまちづくり」の認知向上をめざす。
- ・はぐくむサポーターを増やす。

(市民)・はぐくむサポーターになる。知り合いにもすすめる。

《2. 市民参画》

①検証項目のよいところ・強み・頑張っているところ

- ・「地域担当職員制度」がある。
- ・はぐくむ条例のパンフレットの「まちづくりって、私にもできるの」の項目で、どんなことがまちづくり、参画、協働につながっているのか実感できる。

②検証項目の改善してほしいところ

- ・区長、公民館運営委員、市民公募の委員等にならないと市や市職員が身近ではない。
- ・政策決定の過程に女性や市民の意見を聞くプロセスが少ない。

⑤検証項目の理想の姿

- ・政策決定の過程にもっと女性や若い世代などが参加できるようになると良い。
- ・審議会等について、市民公募委員が全体の 50%程度いる、委員の男女比率がほぼ同じ、偏りのない多種多様な委員構成になると良い。

⑥それぞれができること

(行政)・学識経験者、公募委員等の割合や男女比などを検討する。

- ・審議会、委員会の設置の際に、市民委員を公募する。
- ・自治体の政策過程すべてに市民公募委員が入るように検討する。

(市民)・市民の意識変化。観客から当事者になる。

- ・自分たちの力でも市政を変えることができるのではないかと考える。
- ・自分の住むまちに関心を持ち、広報などを読むようにする。
- ・同じ人に負担がかからないように、まず自分で行動する。

《3. 協働のまちづくり》

①検証項目のよいところ・強み・頑張っているところ

- ・ボランティア登録をしている人が多い。
- ・地域担当職員制度、地域づくり活動交付金、地域運営組織検討懇話会の実施。

②検証項目の改善してほしいところ

- ・ボランティア登録者は多いが活動しきれていない。
- ・人材を持て余しているように感じる。
- ・地域での動きが分かりにくいし、問題点の共有ができていない。

⑤検証項目の理想の姿

- ・ボランティアの方々にもっと活動、活躍する場、情報の提供。
- ・小学校高学年や中学校ではぐくむ条例の授業をし、小さい頃から意識付けをする。

⑥それぞれができること

(行政)・地域や施設などとの連携を密にとり、ボランティアの方や人材を動かせるようにする。

(市民)・もっと地域に対して勉強する。

- ・地域の役員だけに任せない。

行政も市民も、お互いに言い分はあると思うが、安心して住みやすい橋本市を一から作り上げていくような気持ちで信用し合って話し合う。

《その他の項目として提出があったもの》

- ・地域運営組織について
- ・はぐくむ条例が認知されているかどうか
- ・市政運営（総合計画）

- ・市内イベント日程の重複解消
- ・運転マナー向上
- ・3世代居住の推進
- ・移住者への支援
- ・会議運営の効率化
- ・車がなくても生活できる交通環境について
- ・耕作放棄地、山林について
- ・はぐくむ条例の多言語翻訳について
- ・はぐくむ条例の文言について

3. 議事

(1) はぐくむ委員会で検証するポイントの検討（グループワーク）

（資料6 グループワーク用ワークシート）

2. 報告(4) 勉強会後に提出された検証ポイントの検討シートについて(まとめ)を受けて、4～5名のグループとなりグループワークを行なった。グループごとにピックアップした情報共有、市民参画、協働のまちづくりの3項目から、興味・関心のある項目を1つ選んで話し合った。

(2) グループワークの報告

《A班. 情報共有》

- ・1番大切なのは、まずは情報共有すること、みんなに知ってもらおうことだと考えた。
- ・そのために何ができるか？について話し合った。
- ・広報もあまり見ないという人がいるので、回覧やHPの手法を使ってはどうか。
- ・学校の授業にはぐくむ条例について取り入れれば、子どもが学んだら親に伝えることで、その世代みんながはぐくむ条例について知ることができる。
- ・「はぐくむ条例って知ってる？」という話題づくりも大切。
- ・はぐくむ委員会と市議会議員の意見交換会などができれば話題づくりにもなり、興味や関心のきっかけにもなるのではないか。
- ・イベントなどではぐくむ条例に関するブースをつくっては。
- ・駅でビラ配りをしたり、インスタで発信したりできれば働いている人にも知ってもらえるかもしれない。
- ・行政にしてもらっただけではなくて、はぐくむ委員会も自分の家族や友人に発信していく必要がある。まずは自分たちでできる情報発信をしていきたい。

《B班. 協働のまちづくり》

- ・橋本市にはボランティア登録している人がたくさんいるが、まだはぐくむ条例を意識した取り組みにまでは至っていないのではないか。
- ・まずは、解決しなければならないことは何か、課題は何かを見つけたい。
- ・ヘスティアさんのような、橋本市の強みをもっと活かせるようにしたい。

《C班. 今後の運営方法／情報共有》

- ・今後のはぐくむ委員会の運営方法について、班編成が毎回変わってしまうと話が進みにくいので、今回のグループワークの班で3項目の内どれかの項目を受け持つ担当制にした方がよいのでは。
- ・情報共有について、まずは条例の周知をすることが大切。
- ・そもそも、まちづくりが何かわからなければ身に入らないのではないか。
- ・まちづくりが自分に関係することだとわかるようにしなければならないのでは。
- ・まちづくりが日々の暮らしにかかわっているとわかるPRを。
- ・はぐくむ委員会でFMはしもとに出演したり、PRビデオをつくったりしてはどうか。

《委員長意見》

- ・C班からの意見にもあったように、班をある程度固定して、検証したい項目について深堀していく方法が良いのではないか。
- ・班での活動は委員会外の活動となってしまうので、時間的に余裕があれば別の班にも入ってよいということにし、委員全員がプチ専門家になれるように励むこととする。
- ・A班は情報共有、B班は協働のまちづくり、C班は市民参画について検討する。
- ・次回の委員会では班で活動した内容を発表することとする。

(3)次回の日程について

- ・11月頃に予定されている研修については、詳細が決まり次第連絡する。
- ・次回の委員会は、少し時間が空くが冬頃の開催とする。

4. 閉会

以上

【会議録署名欄】

委員長

飛内秀雄 

【会議録署名欄】

委員 前田陽一郎

【会議録署名欄】

委員

東 美穂